

管理会社社長の 街づくり奮闘記 前編

地域の衰退に危機感を覚え、街づくりに携わる不動産会社が増えてきた中、まさに「我が道を行く」意志の強さで、寂れたリゾート地をよみがえらせようとする経営者がいる。舞台は神奈川県三浦市。潮風の薫るこの土地で何が起りつつあるのか。希望と不安を抱えた街の再生プロジェクトを追う。



シー・エフ・ネッツ
(神奈川県鎌倉市)
倉橋隆行社長(58)

花火大会から始まった

2016年の秋も深まったころ、ある町の商店街を見学する中国の小学

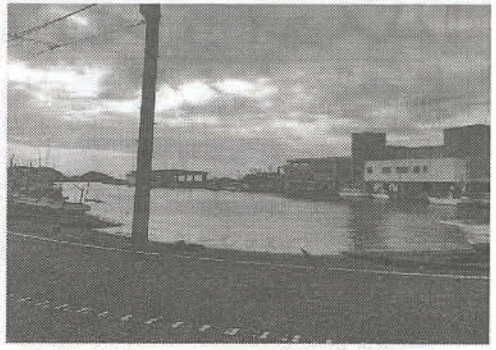
生の一団の姿があった。その人物とは、倉橋 ショーンを中心とする。銀座でも、心齋橋でもな 隆行氏。中古の区分マンと管理を行うシー・エフ



《神奈川県三浦市》
神奈川県の横浜市に隣接し、三浦半島の最南端に位置する。人口は4万4346人(2017年2月1日時点)。市内の三崎漁港はマグロの水揚げ量が豊富なことで有名。三浦半島の東側、相模湾に面する油壺は有名な別荘地として名を知られる。

神奈川県三浦市で空き店舗の再生開始

・ネッツ(神奈川県鎌倉市)の経営者である。自社でも25億円ほどの不動産を所有し運用している。管理会社だが、次から次に「アイディアをひねり出し、シャッター商店街の再生に挑む。」



▲三浦市内には、ヨットハーバーが何カ所もあり、夏にはリゾート地としてにぎわうが、年々人口が減り地元の商店街も空き店舗が増えている。

そのきっかけは、10年前の花火大会からだった。三浦市には一度も行ったことがなかった倉橋社長は、行きつけの築地の寿司屋の職人が開業した三浦の店に足を運ぶようになった。三浦の街は、土壌を気に入ってしまった。街主催の花火大会があるとき、花火が見えなくなるまで購入し、夏を楽しむにしていた。

不動産で恩返しを

「マンションで友人らと花火を見ながら酒盛りをしましたよ」

自分が思ってもみなかったところで地域の人の生活に貢献していたのだと実感した倉橋社長、「不動産で稼がせてもらった身だ。不動産で恩返しをしよう」と町おこしに携わることを決意した。太平洋側に面する景色は美しく、地元でこれほど美しい格別なうまい。だが、メイン通りはシャッター商店街となり、歩行者も少なく寒々としていた。テナントのいない店舗へ、飲食店や小物の販売を行う個人事業主を誘致してみたが、閑古鳥が鳴いているところでは、商売は続かないとすべに出てしまった。ならば、軌道に乗るまで自分が商売をしよう、シャッター商店街の店を買い取り始めたのである。《後編へ続く》

中国人観光客も誘致

三浦市の魅力を海外にも発信していく。シー・エフ・ネッツの倉橋社長は16年に中国・山東省の維坊市と文化交流を結んだことで、昨秋中国から20人の小学生を呼び寄せることに成功した。学校行事として三浦市を組み込んだ旅行を始動する予定だ。

倉橋社長は「以前に比べて人の数は増えてきたが、中国からの観